8/20
朝日

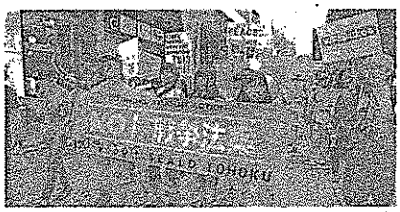
身近で声あげる

SEALDs TOHOKUの思い

戦争法案に反対する東北の学生たちが集まって結成された「SEALDs TOHOKU」が、仙台市で「デモパレード」に取り組みました（9日）。デモに先だってメンバーの久道瑛未さん（大学2年生）が訴えました。「震災で大きな傷を負い、あたりまえの毎日が失われることの苦しみを感じた東北の地から、戦争法案反対の声を上げることは、大きな意味を持っていると思う。本当に止めるために、皆さんと一緒に声を上げたい」と―。

シャイだから

「東北の人はシャイだから、目標は500人だけど、集まるかな…」。デモの前、不安そうに話した呼びかけ人の一人、東谷いずみさん（大学4年生）。不安をよそに、デモには学生や若者を中心に600人の幅広い人々が集まり、飛び入り参加もありました。「戦争法案とめっぺし」「学生だって黙ってないぞ」と、東北なまりを交えたコールを街に響かせました。



商店街で声を上げる若者たち＝9日、仙台駅周辺

東北の学生4人と、東京から応援に来たSEALDsの大学生がスピーチ。地元の高校1年生、福田聖奈さんもマイクを握りました。「政治のことを学校で話すことがタブーなこの時代、黙ってたら賛成だと思われてしまいます。私は決まったことに〝そうなんだ？〟という軽い言葉で収めてしまう傍観者にはなりたくない。戦争法案に反対します」

妻と8歳と6歳の子どもの家族4人で参加した泉裕一さん（40）は「東北は控えめな人が多いイメージでしたが、こんなに多くの人が参加していて、驚いています」と話します。

仙台で医療福祉を学ぶ男子大学生（3年生）は「身近な場所で声を上げられるのがうれしい」と。「東北だって黙ってないぞ」と、東北なまりを交えたコールを街に響かせました。